

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

532

授業力向上サポート事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	2	社会を生き抜く子供たちの学力の育成
施策	1	確かな学力を育む教育の推進
取組方針	1	教育課程の充実と学力の向上

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		教育総務費	
	目		教育研究所費	
	大事業		教育研究所事業	
	中事業		授業力向上サポート事業	

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	無し	～	無し	
事業実施の根拠法令	地方教育行政の組織及び運営に関する法律		関連課	

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	授業改善研修等を重ねること、教育の授業力向上と児童生徒の学力向上を目指す。		小中学校における児童生徒の、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業改善を行う。また、客員指導主事を活用し、学校の校内研修の活性化と充実を図る。			
事業内容		平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
		学習研究会開催、中学校の学び合い、QUテスト、客員指導主事事業の実施。	授業研究大会開催、中学校の学び合いの授業づくり事業、客員指導主事事業の実施。	和歌山市授業研究大会の開催、中学校の学び合い、客員指導主事事業の実施。	和歌山市授業研究大会の開催、中学校における学び合いの授業づくり、客員指導主事事業の実施。	和歌山市授業研究大会の開催、中学校における学び合いの授業づくり、客員指導主事事業の実施。

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	1,123	1,152	889	644	804	848	866	0	804	0
伸び率(%)	△31.8%	△43.4%	△20.8%	△44.1%	△9.6%	31.7%	7.7%	△100%	△7.2%	0%
人件費	正規職員	4,833	4,833	4,778	3,345	4,577	8,300	8,300	0	8,300
	正規職員以外	0	0	1,617	703	1,412	2,879	2,879	0	2,879
	小計	4,833	4,833	6,395	4,048	5,989	11,179	11,179	0	11,179
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源(税等)	1,123	1,152	889	644	804	848	866	0	804	0
所要人数(人)	正規職員	0.60	0.60	0.60	0.42	0.59	1.07	1.07	0.00	1.07
	正規職員以外	0.00	0.00	0.43	0.14	0.38	0.76	0.76	0.00	0.76
主な予算内訳	報償金790千円、市内出張旅費14千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
活動指標	客員指導主事の活動数	人	目標値	100	100	100	100	100
			実績値	203	100	165		
			達成度(%)	203%	100%	165%	%	%
活動指標	学び合いの授業研究会回数	回	目標値	54	54	54	54	54
			実績値	91	26	79		
			達成度(%)	168.5%	48.1%	146%	%	%
成果指標	学び合いの授業研究会参加者数	人	目標値	200	200	200	200	200
			実績値	194	55	662		
			達成度(%)	97%	27.5%	331%	%	%
成果指標			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	令和3年度の和歌山市授業研究大会は、小学校4校、中学校1校が授業校となった。事前に授業をビデオ撮影し、参加者は当日までに動画を視聴のうえオンライン協議会に参加する形で開催した。当日は、238名の教員が協議会に参加し、活発に意見交流が行われた。客員指導主事事業は、小・中・高等学校31校から派遣依頼があり、のべ165回の訪問指導を行った。
見直し・改善内容	学び合いの授業づくりについては、各校の今までの取り組みをもとに、各校及び各教員の授業改善に向かう意欲の向上や授業研究の深まりを一層すすめるために、各校オリジナルの「学び合いの授業づくり」スタイルで授業改善に取り組む。また、取り組みについての理解を深めるため、授業づくりハンドブックと説明動画を作成し、各校に周知する。